

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和 5 年 6 月 28 日

福岡県知事 殿

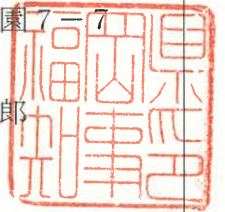
提出者

住 所 福岡県福岡市博多区東公園7-7

氏 名 福岡県

福岡県知事 服部 誠太郎

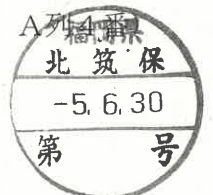
電話番号 092-651-1111



廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	福童浄化センター
事業場の所在地	福岡県小郡市福童1421
計画期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	下水道処理施設維持管理業 [3631]
②事業の規模	流入水量 6,149,617 m <sup>3</sup> (令和4年度実績)
③従業員数	38人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙1のとおり

(日本工業規格 A列4番)



産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
(管理体制図)			
別紙2のとおり			
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
① 現状	【前年度（ R4年度）実績】		別紙3のとおり
	産業廃棄物の種類		
	排 出 量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	濃縮汚泥	
	排 出 量	36,419 t	t
	(今後実施する予定の取組) 下水処理区域の面整備の進捗に伴う流入量の増加に比例し、濃縮汚泥の発生量も増加しているが、凝集混和には適切な高分子凝集剤を使用して濃縮濃度を管理し、発生量の低減に努める。		
産業廃棄物の分別に関する事項			
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)		
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)		

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（                      年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
① 現状	【前年度（                      R4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	濃縮汚泥	
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	31,157 t	t
(これまでに実施した取組) 中間処理(脱水)後に生じる脱水汚泥の含水率を下げることにより、脱水汚泥の発生量を削減してきた。 含水率の運転指標を70.0%以下に設定し、含水率を平均69.5%にすることができた。			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	濃縮汚泥	
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	32,420 t	t
(今後実施する予定の取組) 脱水汚泥の含水率については、管理上適正な下限値があることから運転指標値をむやみに下げることができないが、脱水時の条件設定や維持管理を適正に行って、指標値を上回るケースを減らしていく。			

(第4面)

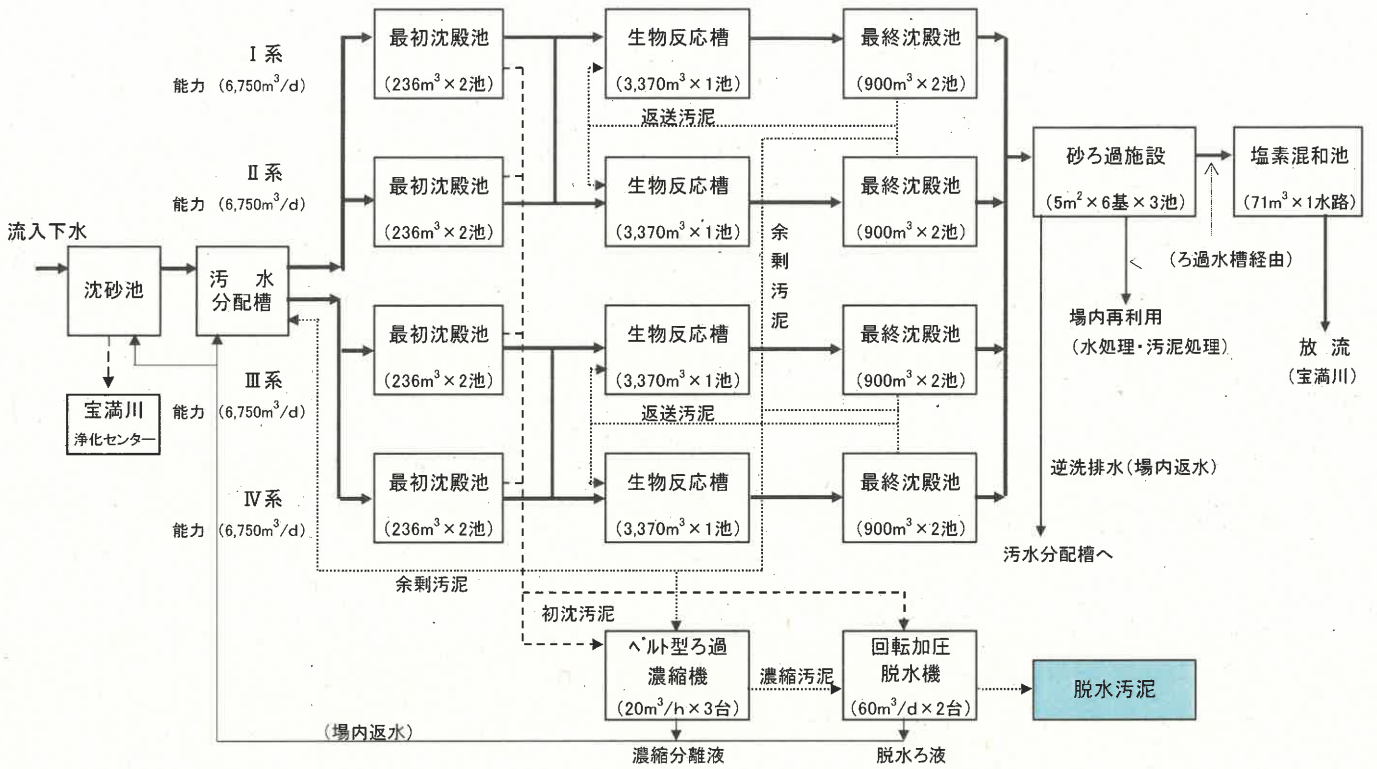
自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
①現状	【前年度（                      年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	【前年度（      R4年度）実績】                      別紙3のとおり		
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組)		

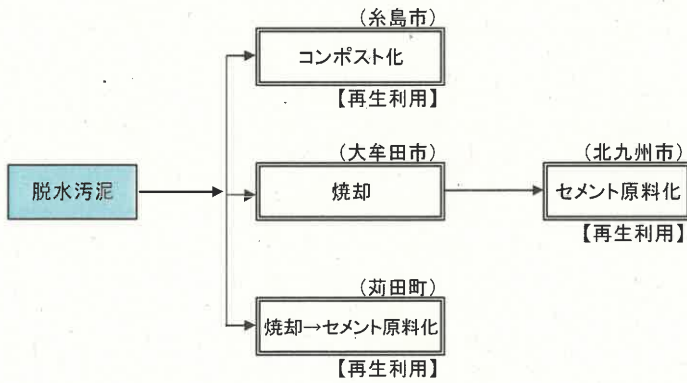
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	脱水汚泥	
	全処理委託量	3,999 t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	1,955 t	t
	再生利用業者への 処理委託量	3,999 t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
	<p>(今後実施する予定の取組)</p> <p>今後とも、産業廃棄物の適正処理の観点から、処理業者と委託契約を締結するに際しては処理状況、維持管理状況等に関する事前の確認を行い、また、契約締結後も履行確認を行うこととする。</p> <p>脱水汚泥の処理業者の選定にあたっては、再生利用を行う業者から選定する。</p>		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
  - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
  - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
  - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

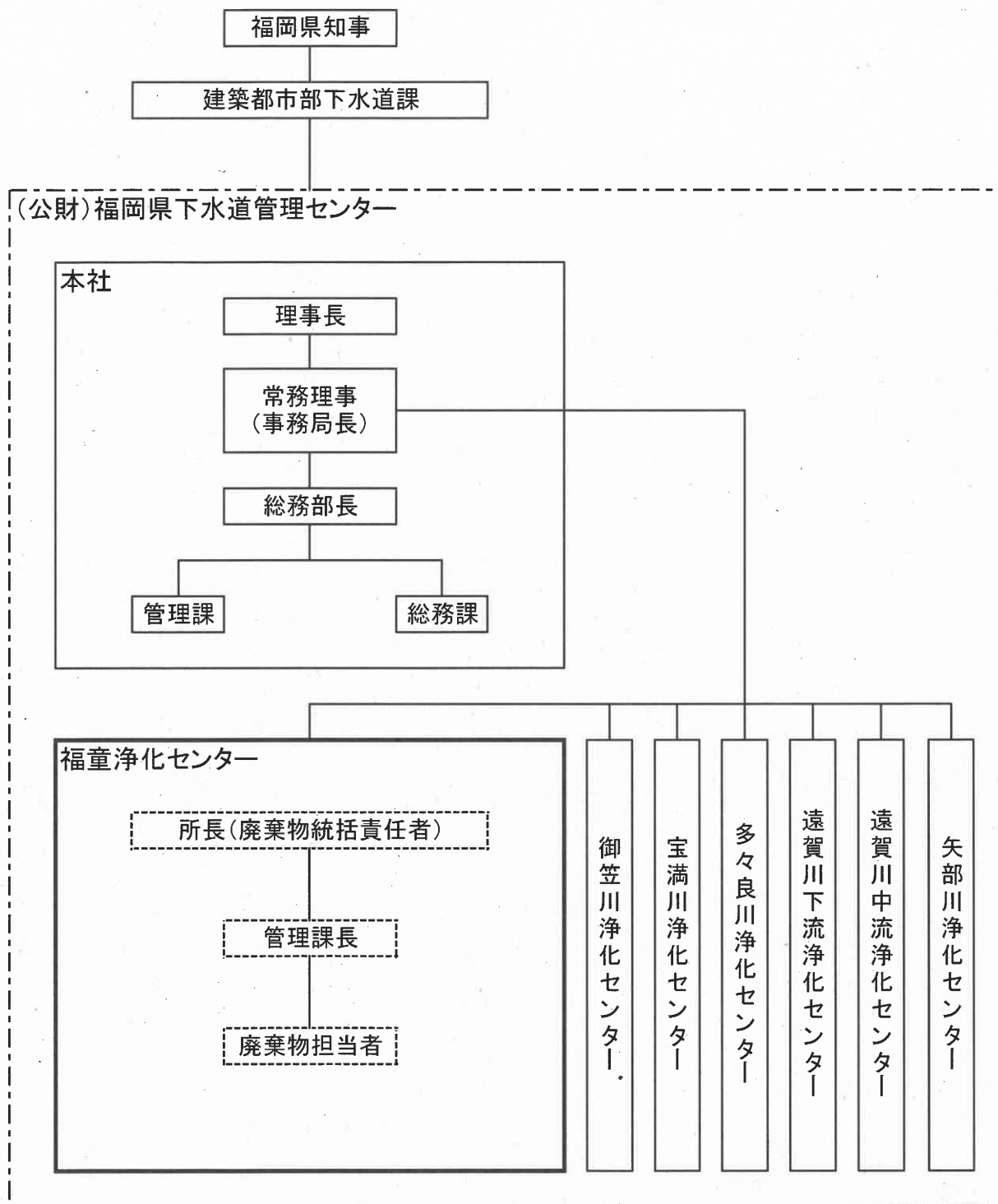


(委託処分の範囲)



# 廃棄物管理体制図

[別紙2]





(第2面)

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項							
【前年度(令和4年度)実績】							
① 現状	産業廃棄物の種類	濃縮汚泥	ガラスくず等	廃プラスチック類	金属くず	廃電気機械器具	管理型混合廃棄物
	排出量	34,999 t	0.20 t	0.04 t	0.57 t	2.30 t	2.29 t
<p>(これまでに実施した取組)</p> <p>下水処理区域の面整備の進捗に伴う流入量の増加に比例し、濃縮汚泥の発生量も増加しているが、凝集混和には適切な高分子凝集剤を使用して濃縮濃度を管理し、発生量の低減に努めている。</p>							

(第4面)

産業廃棄物の処理の委託に関する事項							
【前年度(令和4年度)実績】							
① 現状	産業廃棄物の種類	脱水汚泥	ガラスくず等	廃プラスチック類	金属くず	廃電気機械器具	管理型混合廃棄物
	全処理委託量	3,842 t	0.20 t	0.04 t	0.57 t	2.30 t	2.29 t
	優良認定処理業者への処理委託量	1,924 t	0.20 t	0.04 t	0.57 t	2.30 t	2.29 t
	再生利用業者への処理委託量	3,842 t	t	t	t	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t	t	t	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t	t	t	t	t
<p>(これまでに実施した取組)</p> <p>産業廃棄物の適正処理の観点から、濃縮汚泥については、処理業者と委託契約を締結するに際しては処理状況、維持管理状況等に関する事前の確認を行い、また、契約締結後も履行確認を行っている。</p> <p>脱水汚泥の処理業者は、再生利用を行う業者から選定している。</p>							